

# 池田 巖

- 1940 竹芸家二代池田瓢阿の長男として、東京に生まれる
- 1950 父・二代目池田瓢阿に竹芸を師事
- 1956 土肥宏全（茶道江戸千家）に入門（-'58）
- 1960 赤地友哉（1974年に重要無形文化財保持者に認定）に師事（-'84）
- 1963 東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻卒業
- 1965 松田権六に蒔絵の時代研究を師事（-'87）
- 1968 鈴木宗保（茶道裏千家）に入門（-'83）
- 1971 「池田瓢阿・巖 籠と漆の父子展」（日本橋三越／東京）
- 1974 東京国立博物館にて国宝修理に従事（-'75）
- 1977 文化庁後継者養成髹漆講習会にて赤地友哉の助手を勤める
- 1978 監修「棚物と四季の取合せ展」（逸翁美術館／大阪）
- 1986 「茶の湯の造形 五百年」（日本橋高島屋／東京）における林屋晴三の現代の  
取り合わせに「七面削竹茶器」を出品、この作品が転機の一点となる
- 1988 個展（寛土里／東京）—以後 '91、'94、'97、'01、'02、'05、'06も開催—
- 2002 「The New Way of Tea」（Japan Society Gallery／NY）
- 2006 第一回智美術館大賞「現代の茶陶：造形と自由と用の見立て」特別賞受賞
- 2008 「New Bamboo: Contemporary Japanese Masters」（Japan Society Gallery／NY）
- 2008 個展「漆、新しき経験—池田巖 1960-2008」（菊池寛実記念 智美術館／東京）
- 2010 「茶事をめぐって—現代工芸への視点」（東京国立近代美術館 工芸館）
- 2012 「現代の座標 工芸をめぐる 11 の思考」（東京国立近代美術館 工芸館）  
「竹工芸の継承と革新」（大分県立芸術会館）  
「茶の湯の現代：用と形」（菊池寛実記念 智美術館／東京）優秀賞受賞
- 2013 個展「池田巖 竹／漆」（ベルリン国立東洋美術館）  
同展 巡回（'14 ドイツ・ミュンスター漆工芸美術館）  
同展 巡回（'14-15 クラクフ・日本美術技術博物館 Manggha）

## パブリックコレクション：

ヴィクトリア&アルバート美術館（英） クリーヴランド美術館（米）  
ペルガモン美術館（独） クラクフ・日本美術技術博物館 Manggha（ポーランド）

## 主著書：

「茶の漆芸 棗」 「茶の漆芸 香合」 「嵯峨棗」 「茶道具の世界 茶杓」 いずれも淡交社刊